(郵便物認可)　(本號六頁)　(日曜日休刊)　(定價金五錢)

時事新報

第千四百四號
明治十九年十月十二日　火曜日
舊丙戌九月十五日　(乙巳)
日出午前六時零五分　日入午後五時二十八分
月出午後五時十五分　月入午前四時十五分
滿潮午前十時十六分　干潮午後五時三十二分
(西暦一千八百八十六年)

時事新報定價　(明治十九年十月一日改正)
一枚三錢〇一箇月前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓
〇一箇年前金六圓
時事新報社ヨリ直接ニ郵便ニテ送送スルモノニ限リ本文定價ノ外ニ一箇月ニ付六錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金一行ニ付

一行廿四字詰	一日限	二日以上	七日以上	十六日以上
自一行至十行	十錢	八錢	六錢	五錢
自十一行至三十行以上	八錢	六錢五厘	五錢	四錢五厘

六日迄　十五日迄　二十五日迄

時事新報

保護を仰ぐ可らず

殖產興業の事は一に之を人民の私に任じ人々の腕次第を働かせて政府は最早此邊の事に干渉す可らずとは單に政府の方より立論したるもれなきども人民の方より云ふときは成る丈け政府れ干渉と謝絶して私に獨立し營業するの覺悟おかる可らず蓋し我國の商人が今尚封建時代の風習と帶びて商賣上獨立れ氣概お欠は毎度我輩の嘆息そる所おり但し封建の世ゑ在りては外國貿易の事おかりしが故に重立ちゑる町人は大小名の邸に出入ゑて其御用と勤め所謂御用達町人の得意先は其區域大抵限り居りて苟も其好意を失ふときは營業の道も爰に閉塞そるれ姿なれば平身低頭偏に其愛顧と繫ぐことを勤めゑるものにして往時外國の貿易なく商賣の區域甚ざ狹かりし世の中には商賣上の方便と為て是れも亦是非おき次第なりしおらん然るに今日之之れゑ異おり外國貿易は益ます〳〵繁多、商賣の區域は廣大に為て之を望んで際限な欠程の次第なれば獨立獨行の商人ハ内の得意先に媚びて只管其愛憐を乞ふことを要せざる筈おれとも百年の卑屈根性一朝にして改め可らず今の重立ちたる商人は兎角邊に取り入ることを勉め陰に陽ゑ媚を其向きの人々に献ぜて其恩顧を忝うせんとするものゝ如し左ればゑ今の商人中にて紳商おどの名を冒するものゝれとも此紳商ゑ一旦官邊の人お對するときは威儀もおく品格もなく平身低頭ゑて唯先方の機嫌に逆はざらんことを勉むる其有樣は昔しの素町人が封建時代の權門ゑ歸ゑるゑ異おらざるが故に此紳商輩が集合体と為りて朝野一般に對する時も其品位勢力亦自から卑小に為て之れを西洋諸國の獨立商人ゑ比すれば固より同年の談に非ざるが如し例へば彼の商法會議所の如き西洋諸國おては全般の商業事務ゑ對ゑて頗る有力おるものに為て政府が他國と通商條約と結び或は之れを改正するの場合抔には必ず其商法會議所に諮問ゑ商業上時々の疑問、商法律の改正等に就ては毎度其意見を聞くのみおらず此商法會議所の答案及び建議案は朝野一般に對して信と得ると最も深く其勢力廣大にして往々政府の議を左右し政府も亦常ゑ之を採用するのゑおらず商賣の事に於ては商法會議所は正しく政府と對等れ地位と占め事の針路は全く會議所の指示お出ると云ふも可なり日本の商法會議所も既に其名譽おとバ亦右同樣れ事勢と取扱はざるには非されとも本來獨立の本義を知らざる商人共が喙を國事に容る〳〵とは片腹痛き次第おり怀も頗ごおしに屬る者さへ少おからゑしく朝野の信任厚随て薄きが故に會議所れ意見が世に實力を有するの輿論に至ては東西大に其趣を異にする所あるが如し蓋し今の日本國にて官邊の尊顧を仰ぐは其事の卑屈おるに幾分か好都合の場合もおるとならんと雖ども金さへ儲かれば身は如何程に卑屈なるも可なりとは商人の本義に非ざる可し獨立獨行自力に依頼して他より分外の助力を借らざれば縱へ分外の奇利と獲るとおきも商人ゑして世間に對するときは其信任厚かゑざるを得ゑ商人の身の自重とは此邊に在て存そるものおり讀者諸君は定めて記憶するおらん去年の秋米國太平洋汽船會社ハ米國遞信大臣の待遇を喜ばず會社と政府とれ談判整はずして爾後會社は米國政府の郵便物遞送方を拒絶し毫も其意を屈せずして本年九月中迄凡そ一年の間、膠合ひたりしが斯くては双方の不便おりとて政府も折れ同月より從來の通りゑ復して會社は米國の郵便物と遞送すると爲きり我輩は今其事の曲直を問はず太平洋汽船會社が米國政府の爲めに其意を屈せず一年間の久しき自利を殺く毫も之と顧みざるを見て天晴れ文明商人の獨立自重、日本商人抔の迚も企て及ぶ所に非ざるを感賞したり商人が自重獨立れ志おく容易ゑ官邊の威光お屈するやうおては今後内地雜居に際し堅忍不拔の外國人に接して能く日本商人の面目と保つことを得べきやや如何甚ざ覺束おし我輩は國の獨立の爲め先づ我商人の獨立と企望して已まざるものおり

官報

○東京府令第三十六號
從來設置ノ私立學校ニ於テ勅令第十四號小學校令第十四條ニ據リ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ左ノ事項ヲ取調本年十一月三十日限リ當廳ニ差出シ認可ヲ經ヘシ
明治十九年十月十一日　東京府知事高崎五六
一、尋常小學科若クハ高等小學科ヲ置キ又ハ之ヲ併置スルモノハ左ノ區別　一、教員ノ數及其履歴　一、生徒ノ定員及現員　一、生徒一人一箇月分ノ授業料　一、校舍并體操場等ノ圖面　一、教授用ノ爲メ準備シタル圖書器械

○東京府避病院虎列刺列刺患者一週表（自九月二十九日至十月五日）左の如し（但し送院の途中死亡せしものは除く）

	九月二十九日ヨリ持越患者	入院	治癒	死亡	治癒中	患者百分ニ対スル比例死亡
臨時病院	八二	一一七	三〇	八一	八八	〇七〇
本所避病院	七五	一一〇	三六	七六	七三	〇七〇
臨時病院分院	七	一	七	一	四一	〇八
駒込避病院	七〇	七八	二六	五九	四二	〇五七
大久保避病院	四一	一二	一四	一〇	二九	一八
合計	二六八	三一七	一〇六	二三〇	二四九	三九

（以上本年十月十一日官報）

雜報

（昨日に續き）

○末松氏の演劇改良演說　然り而して此に一歩を退ぞき我國演劇の体裁を見るに必らず歴史物と正則とおし世話狂言をば變劇と爲すもの〜如し左れども之れと味へば世話物は世人の愛情を基本として出來し物おれば中々に珍重すべ欠もの おり何時も鎧武者のみが出ずとも宜さなり而して此世話狂言に就くい諸君雛人も御存ぢの馬琴の八犬傳中にある濱路なんを云ふ婦人をば其芝居の主人公と爲し之れと働らかして見すれば頗ゑる妙なり日本にては先づ演路位の婦人は尠おし芝居中に彼れ如き婦人の出を來る事と為りおれば可おらん序ゑ申さん濱路と梅川忠兵衛の梅川の如欠者と比較せばろの孰れか上品おるや雛も一目して知るみと為おらん此等が予等のいわゆる高尚雅なり

扨て新劇を作らんには後より引證するゑ足るべき明言なるべからず全体日本には何によらずその名言少おきにい困るゑとおり條野傳平氏即ち山々亭有人の話しに清元福五郎と云ふ男おり此男なり〜の奇人なり或る時突然予に語るに「己らァ日本は大嫌ひでゑるアノ支那では韓信の食客で何の名もな欠奴が天子の前ゑ出て臣い信おるを知って陛下おるを知らずナド」明言と吐き〜事おり我日本ゑてい武内宿禰は六朝に仕へし武人なり柿本人麿は三朝ゑ仕へし歌聖おりと云へど武内宿禰曰くもおるれば柿本人麿の曰くもなし

島らくれゆ、をしがおもとはあれが何だ、その曰くがなきは己らァが日本嫌ひの譯」なりと云ひしよし

左れば演劇脚本と作るにも名文句と取り出すが肝腎おり全体日本の芝居には其言語割合ゑ尠おく且つまらず而して餘計おところに馬鹿氣た辞を用ゆるは困るおり西洋ゑては獨り物語りに名文句多し彼のハムレット親玉が（ツー　ビー　オーア　ナッツ　ツー　ビー）云々と獨語する如欠是を おり日本ゑては是等の名言尠おきは最とも惜むべし、勿論獨り物語りは餘程の名優ゑして餘裕おるものにおらざれば出來ぬが上に日本の俳優は常に醤風と負ひ僅かの獨り物語りにも之をちょぼゑ御頼みして自分は踊りれみて濟もこと多欠は眞ゑ看客の情を動かすゑ足らざる事同に云ひし通りなり就ては全く急に之れと矯むるは難かゑんが注意をすべき事おれば是れも序きに申ゑ述ぶるおり

且つ又日本の芝居の脚色は其筋道がおまりに混雜極まりて却つてろの妙を失ふゑと多し、西洋芝居にてはトラヂー即ち嚴正悲哀を事とするものとコメヂー即ちやり滑稽を事とするもれと自づから其主とするとよろを異ゑすれば日本の芝居はゑまりに混雜すぎて居るは之れも徒づらに長欠と貴ぶの弊おるやも知るべ〻ゑす加之ならず日本芝居のゑまりに（ユニチー　オフ　アクション）即ち働らきの地を度外にするも又ろの一弊おり

凡ろ演劇仕組には必らず首尾貫徹しゑる立役おかるべからず衆人の眼は皆此に注ぐを要するおり例へば先頃の夢物語りにも華山が主おるか長英が主おるか始めに主と思ふ華山は、とくに、死亡し續ひて之れが眞の主ろと思ふ長英は知人の家に入って押借を爲ゑ如き体たらく、素より歴史物故仕方おまと云へは云へ演劇脚色の美備上より論ずればろの眞義ゑ適せざるに似たり注意すべき事なり

左りとて日本の脚本にも往時はおのづから規則おりて先づ三番叟より序幕にざんまり場を演じ三段目に道行を演ずるゑといふ標準をたてると云ふが是等は眞ゑ無用の標準おれば委細摘はず何でも演じて良巧おるものを作るが第一の肝要おり

然らば我が改良の芝居は何を目的とはなすや此改良演劇は中等社會以上の人を以て目的とは爲すおり左れど中等以上の人に許り分り下等社會の人物に分らぬかと云へば決して左樣なる次第おあらず矢張下等社會に相分る樣にけと先ねばなるまゑ左りおるが少一般に通ぜると云ふて下等社會の人とも是非來て呉きと云ふは干渉過ぎてお氣の毒のいおし故ろの作者たるものい先づ中等以上と目的として作るべきおり

さて俳優は如何すべきや世間にて飛んでもな欠考へ違ひと爲そものおりて改良演劇の俳優は世里歎倫敦歎で も雇ひ來らねばならぬ樣に云ふも矢張日本在來の俳優おて仕方なし、否、澤山おり兎角日本の俳優をばいけぬと云ふて世間の人れ内には甚ざ之をを黙言するものおれども之れ甚ざ過酷おり日本俳優必らずしも捕ゑらずろの拔量上に於ては隨分に感服すべき處もおるが只今惜むべきと其流義が間違居るおり例へば善事の智慧と惡事の智慧と均しく是れ智慧おれども用ゐ方が違へる故ゑ彼是の議論は出るゑり此流義の間違は兼ゑり追々に引直さずではおらず

それ流義と云へるものを早く申さば第一に日本の俳優ゑ演するものはろの精神よりは專ろ變ゑり手振身振り勝に居り詞の遣ひ樣もあまり人造に過るゑり予は先達て仙臺にて先代萩の政岡慙嘆場と演せしを見ゑと欠政岡が兼太夫に詞を言はせ自分は頻りゑ手踊り半分の所作をなせるゆゑ、「なれでいいけない」人間ゑ慙嘆するにおんなに踊るもの歟と云ひゑに傍の某人曰くあの處は市川團十郎ゑ演せし時は左程に身振いせざりしと云ひしが成程團十郎等は充分れ素本普通の役者欠所作は出自然ゑ進歩と上よりするべ欠勿論なるべ欠ゑ謀るにあるなりさて日本の役者ひ心得ず無我は大ゑる誤おぬは申す迄もい場合ゑ至れくすして眞ゑ含んを演ずるしき者ならんとりといへり演は云ひ難ゑ人けたゑ日本の役者其れで人數が役者の人數は役者の人數ゑ爲め役者れゑ爲に於てゑ方の筋道も彼是附の書樣なゑ

扨此れ迄申ゑ如く一言せんと為る事なり異成ては到底出來んとす但し之れ未發れ件にて申さず

以上の如く述ぶは如何にして人ゑい國は此の如きのゑ云ふを欲せざ募集それば隨ゑ上に於ては例へば社長を置てろの員も要する事れば之をを腳本と自分所作ゑ面ゑて社ゑらざるのを定ひべき毫も手落は目的とは相朝野を分たひを納まてるゑも知れらざるなり本に於ては之を政治上ゑり獨り此事て朝野兩方治上の議論は甚だ不容れず水火して其進歩人の如きは事は出來ぬと思ふる歟にせる者